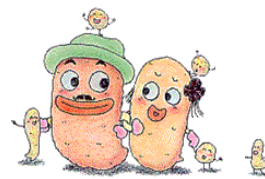


# 湯戸飛夜いけいけだよ



Jinen Joe family

## 記事:

・令和3年度の活動について

・連載小説  
『男でござる 新説天野屋利兵衛』  
第5回

・花いっぱい運動  
戸田駅前の放置自転車が撤去されました

・まちづくりの会あの日あの時  
戸田駅前広場の整備及び美化活動

・今後の行事予定

## 会員募集中

あなたも「西徳山まちづくりの会」で一緒に活動しませんか。会では、常時、会員を募集しています。

E-mail :  
nishitokuyamamatizuk  
urinokai@gmail.com

## 発行 西徳山まちづくりの会

### 令和3年度の活動について

令和3年4月17日に西徳山まちづくりの会総会を開催し、令和3年度の活動を開始しましたが、令和2年度に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、不特定多数が集う行事やイベントは中止を余儀なくされています。こうした中で、環境美化をメインに取り組み、人と人が集う場の提供のイベントは会員のみで行うこととなりました。

(1) 戸田駅を中心とした活動を継続する。

①毎月第2、第4土曜日に戸田駅前の清掃及び花壇の手入れを実施しました。花は、年に2回植え替えています。夏場の花壇の水遣りを有志による当番で行いました。

②令和3年度周南市花壇コンクールに応募し、令和2年度の「特別賞」に続き、「優秀賞」を受賞しました。

③戸田駅前広場で令和3年7月24日と令和3年11月6日に「駅前ピアガーデン」を会員だけで開催しました。

(2) 「道の駅ソレーネ周南」を拠点とした活動に取り組む。

①『ソレーネ周南イベント実行委員会』に会から委員を出しました。

例年開催の「ソレーネ周南周年記念」及び「西徳山いけいけ大収穫祭 in ソレーネ周南」は新型コロナ感染拡大防止のため開催されませんでした。

(3) 西徳山の発展を目指した新たな活動に取り組む。

(4) 交流・研修・広報活動に取り組む。

①令和3年度研修視察は中止しました。

②広報誌を令和3年4月1日号、令和3年7月1日号と令和4年1月1日号の3回発行し、新聞折り込みで湯野、戸田、夜市地区に配布しました。

(5) 組織を充実し拡大する。

①令和3年4月から令和4年3月の間、毎月第3水曜日に映画鑑賞会を9回開催しました。

(6) 他の諸団体と連携し効果的な活動を展開する。

①「周南こどもゆめまつり」は開催されませんでした。

②戸田駅前花壇で「公園花とみどり課」と「種から育てる花作り」を連携して進め、「地域花壇づくり講座」を2名が受講しました。

## 連載小説

# 『男でござる 新説天野屋利兵衛』

## 第五回 文城山 耕作

### 喜兵衛の決心(下)

当時は、船乗りと言えれば荒くれ者というイメージが強く、あまり印象は良くなかったが、幕府の米や各藩の物資を運ぶ船の乗組員は、礼儀正しく、紳士であった。四郎谷に上陸しても酒は飲むけれど、喧嘩とかはまずしない。

幕府や各藩は、廻船問屋に委託・用船するのだが、廻船問屋としても幕府や各藩に迷惑をかける訳にもいかなないのである。

萬と将監の間に生まれた喜兵衛は、萬によって大切に育てられた。喜兵衛も萬の言いつけをよく守る、聞き分けの良い子であった。そんな喜兵衛が船乗りになりたいなどというとなんか反応をするだろう。父は御家断絶になったとはいえ、元徳山藩の家老である。はたして両親は許可してくれるだろうか。喜兵衛は考える。

「俺も、十五になる。いつまでも父や母の許で暮らす訳にもいくまい。学問も一通り修めた。あこがれの河村瑞賢のようになるには、この四郎谷を出ていかなければならない。俺は母親のおかげで読み書きはできるが、実際を知らない。船乗りたちは、読み書きはできないかもしれないが、風が読める。天気を読める。そして太陽や星の位置で自分の船の位置を知るといふ。船頭

にでもなれば直接商いもできる。そうすれば、実際の世の中の動きが分かってくる。今の俺に必要なものは商いの現場で何が起きているのかを知ることだ。両親を説得しなければならぬ。」

あのおとなしく、賢い喜兵衛は思い詰めるのであった。

そしてある日、喜兵衛は夕ご飯が済んで、母親の萬と父親の将監が二人そろっているのを見計らって、自分の決心をカミングアウトするのであった。

「お父様、お母様、私は十五歳になりました。私は河村瑞賢先生のような、世のため人のために役立つ商人になりたいと思います。そのためには船乗りになって、世間を見聞しようと思っております。どうかお許しをいただきたいと思えます。」

黙って聞いていた母親の萬は、いたって静かに頷いて、

「いつかこの日が来ると思っています。お前は父親に似て学問もよくできる。ここに居るのはもったいない。世のために働くがよい。」と言った。

「利発で、聞き分けの良い喜兵衛が言うのだから決心は固いのである。これまで父として何もしてやれなかったのだが、お前の旅立ちにあたって少しばかりのヒントをやらう。」

「塩づくりが盛んなのは、第一が赤穂藩で、二番目が萩の本藩で、三田尻の塩田で作っている。徳山藩でも福川塩田があ

る。」

「わしが江戸へ行ったとき、三田の藩邸にしばらく逗留したことがある。その時赤穂藩の家老である大石殿と気が合って、話し込んだことがある。」

「赤穂藩は五万石で小さな藩だが、塩で儲けて大変豊かであるそう。徳山藩も四万石と同じようなものだ。塩友達だ。」

「その時大石殿から聞いたのだが、塩の輸送は堺の廻船問屋「天野屋」を使っている。仕事が丁寧で安心して任せられるとのことだった。それを聞いて、わしは徳山では言うに及ばず、萩にも天野屋を使うように具申した。今は萩も徳山も天野屋を使っている。」

「わしが手紙を書いてやるので、それを持って三田尻へ行け。そこから天野屋の船に乗り込むように頼んでやる。」

喜兵衛は感激の涙を袖で拭くと、

「お父様、お母様、お許しをいただきありがとうございます。その上何から何まで取り計らっていただき、感謝に堪えませぬ。」

こうして、喜兵衛は四郎谷を後にするのであった。当時は家を離れて遠方へ行くということは今生の別れのようにであったであろう。

### 旅立ち

日向坂46(フォーティシックス)というアイドルグループをご存知だろうか。他にも乃木坂46などがある。たぶんAKB48の流れをくむグループであろう

が、夥しい数のグループができて、しかもみな同じような年ごろの女の子たちで、格好もみな同じに見えるので、どれがどれだかさっぱりわからない。大晦日のNHK紅白歌合戦は、紅組がこの〇〇〇46とか〇〇48とかがいっぱい出る。また白組はジャニーズが席巻をしている。筆者が知っているジャニーズはあおい輝彦であった。

話がそれているが、日向坂の話に戻ろう。日向坂は港区三田にあり、徳山藩の藩邸がそこにあったのだ。ひなた坂ではなく、ひゅうが坂と読む。徳山藩の初代藩主毛利就隆は、日向の守を名乗った。つまり毛利日向守就隆となっていたのだ。守は時代が遡り、平安時代の国司の名残で、日向の守ならば、日向（今の宮崎県）の国の知事といった意味であろう。

ではなぜ周防の国の徳山藩が日向の守なのか。江戸時代になると、自分の名前に箔をつけるために幕府にお金を払って、〇〇の守を買ったらしい。幕府も財政ひっ迫の折、収入になるので、お金を払うと容易に認めたらしい。日向の守も一人ではなかったかもしれない。ここでも就隆の見栄っ張りが表れている。

そんな徳山藩の屋敷の前の坂を日向坂という。それをアイドルグループがひなた坂にしたということだ。

なお、後で登場する浅野内匠頭長矩の内匠頭（たくみのかみ）は、建設大臣くらいの意味であろうか。

さてさて、話は喜兵衛の旅立ちに戻る。

四郎谷を出て、山陽道に向かう。戸田は萩本藩の所領である。本藩の家老である堅田氏の重臣山田様のお屋敷の前を通り、山陽道を下る。

後の幕末時にはこの山田様のお屋敷が、尊王攘夷派の志士らの立ち寄り場所となる。幕末の萩毛利藩の財政を支えた村田清風の書もある。今では戸田にほど近い、同じ萩本藩の所領であった湯野という場所に移設されている。

しばらく行くと、椿峠に差し掛かる。峠を下ると富海に入る。ここは再び徳山藩の所領になる。この富海という場所は長州萩にとって、重要な場所である。京・大阪へ大きい荷物を運ぶには水深の深い三田尻の港を使うが、人や書状といったごく軽いものを運ぶには、この富海の浜から出る飛舟（とびぶね）という、一枚帆のごく舟足の速い小さな舟が便利であった。おそらく幕末には、萩あるいは山口の政庁と風雲急を告げる京の都等の間を、富海からの飛舟が人や書状を積んで行き交ったであろうことは、容易に想像できる。

また、英国派遣中の伊藤博文と井上薫が下関戦争を止めさせようと帰国して、隠れるようにして上がったのがこの富海の浜であった。

その富海を抜けると坂を上る。この坂を橋坂とよぶ。富海は、東の椿に西の橋を配している。

喜兵衛は富海に別れを告げ、さらに西に下ると、三田尻の港へ向かった。

港に着くと、千石積み大きな船がいる。四郎谷で、遠くの入江に風待ちをしているのは何度も見たことがあるが、こんなに近くで見るのは初めてである。まだ荷を積んでいないので、船はその全容を現し、特段に大きく見える。その大きさに圧倒されながら、喜兵衛は船にかけてある板橋を上っていった。

船には何人かの水主（かこ・船の乗組員）が積み荷の準備をしていた。

「お頼み申し上げます。元毛利徳山藩士神村将監の息子、喜兵衛と申します。船頭さんは御在船でしょうか。」父に教えられたとおりに言うと、乗組員の一人が、

「おまえだな、船頭が言っていた新入りっていうのは。ちょっと待っている。」と、船室へ入っていった。暫くすると、年のころは三十少しの上だろうか、がっしりとした体格できりりとした人相の男が現れた。

「お前が喜兵衛か。あらかじめ神村殿からのごと藩庁を通して聞いておる。船で働きたいとのこと、承知した。俺はこの船の船頭で、信吉という。お前の世話はこの又七という船頭代行がする。」先ほどの男が、

「喜兵衛とやら、今からお前は俺と行動を共にする。しっかり働け。俺は又七という。」と、その潮焼けした彫の深い顔が微笑った。喜兵衛は船頭の信吉も船頭代行の又七も人の好い憧れの船乗りたちだと思ひ、これから始まる船の生活に希望を抱くのであった。

（以下次号）



## 編集後記

かつて日本もロシアと陸地で国境を接していた。サハリンである。日露戦争後のポーツマス条約で、合法的に北緯50度以南は、日本の領土とした。第2次世界大戦末期、ソ連軍は日ソ中立条約を一方的に破棄し、サハリンの日本領内に侵攻した。その後のサンフランシスコ講和条約で、樺太千島を放棄したが、ソ連は条約に参加しなかったため、サハリンの北緯50度以南はどこの国の物でもないのであるが、ロシアがその全域を施政下に置いている。

今、ロシア軍はウクライナに侵攻した。このような理不尽な侵略を、絶対許してはならない。我が国も国際社会の一員として、ロシアには出来得る限りの制裁と非難を尽くし、ウクライナにはできるだけだけの援助をしなければならない。

わたしたち一人一人も関心を持ち、できることはないのか探していきたい。

### 発行責任者

会 長 神本康雅  
広報部長 木曾裕子

### 西徳山まちづくりの会

ホームページ URL:

nishitokuyama.web.fc2.com

## 花いっぱい運動

### 戸田駅前への放置自転車が撤去されました

SNS「木造駅舎カタログ」に美しいプロポーションの木造駅舎、端正な佇まいと紹介されている戸田駅のその姿を放置自転車が汚していました。「何とかしたいなあ」と関係者に相談していたところ、令和4年2月には撤去されておりました。（おそらくJRの方だと思います。）ありがとうございました。

駅前花だんの整備と美化を活動の一つとして取り組んでいる当会ですが、駅周辺の放置自転車が撤去されて、何とスッキリしたととても嬉しく思っています。ガザニア、きんせんか、ビオラ、冬しらずの花々も喜んで咲いているように思います。

長年付き合ってくれた自転車ですから、最後まで見放さず、放置せずの心を持ちたいものですね。

(わたちゃん)



## まちづくりの会あの日あの時

### 戸田駅前広場の整備及び美化活動

平成12年から『戸田駅を花の駅に』という目標を掲げ、戸田駅周辺の環境整備をJRや市に働きかけるとともに、花を育てるなど環境美化に取り組んでいます。当初は適当な花壇が駅周辺になくて、プランターで花を育てていました。その後、市道中村線沿いの花壇設置、平成19年度に駅前駐車場が整備され、平成28年度にポケットパークが整備され、現在の戸田駅前の景観となりました。



## 今後の行事予定

### 戸田駅前広場周辺の清掃

毎月第2、第4土曜日の16時から、戸田駅前広場の清掃と花壇の手入れを行っています。

お手伝いしていただける方、大歓迎です。